

街look 田原

街あるつく田原

平成31年2月15日(金)

第47号



田原のまちなかに春の訪れを告げるイベントの一つ「田原まちなか雛祭りめぐり」が2月2日(土)から3月3日(日)まで開催されます。

街なかエリアを中心に去年を上回る50のお店や企業が参加し、お店ごとに収蔵しているお雛様やひなまつりグッズなどを展示しています。

●今年も開催！ 田原まちなか雛祭りめぐり



◀市内各所で設置されている「雛祭りめぐりマップ」

田原のまちなかに「春風」が届きました！

各参加店・企業の店先には地元の園児が作っためりえのお雛様(約700枚)がつるし飾りとして展示されています。

他にも田原市博物館では平常展「ひな人形と初凧展」を3月24日(日)まで開催。田原の旧家に伝わったひな人形や田原凧保存会制作の初凧などを展示します。また、田原まつり会館では雛人形の展示の他、田原祭りで街を練り歩く大きな山車や、けんか凧の展示が3月の下旬まで楽しめます。市内各所に設置された「雛祭りめぐりマップ」を手に田原まちなか散策を楽しんでみてはいかがでしょうか。

また、渥美郷土資料館でも「企画展 第33回ひな祭り展」を3月17日(日)まで開催。江戸時代から現代までのひな人形の変遷を展示。立ちびな、土人形、御殿飾りひな人形、段飾りひな人形などを展示します。



▲富貴屋さんの店内の様子

ぐるっと巡れば楽しさ満彩

渥美半島
菜の花まつり
2019 Atsumihanto Nanohana Matsuri

2019.1/12(土)→3/31(日)

「伊良湖菜の花ガーデン」ほか渥美半島一帯にて好評開催

菜の花まつりに関するお問い合わせは TEL0531-23-3516 渥美半島観光ビューローまで

配布中のパンフレットには
田原街なかスポットも掲載





田原まちなか

か
ね
て

曲尺手

田原城までの道に残る史跡を歩いて巡る「街あるき」。



■三つ目の曲尺手

田原城の地域を囲う、惣構の門がある角。大手公園には渡辺小華のモニュメントなどがあり、街並みを眺めることもできます。

■二つ目の曲尺手

本町通りにある、みたらし団子でお馴染みの「日米堂」の前にある角。

■一つ目の曲尺手

坂下の木戸から城に向かう道。城宝寺、慶雲寺、龍泉寺、龍門寺などの歴史と風格のある寺院などが建ち並び、路地沿いには、昔ながらの町家や古民家、茅葺の家など風情のある建物が今でも残っています。

■田原城下町の頃の地図

●曲尺手とは？
田原城築城に際し、敵の侵入を防ぐために、わざと道を鍵の手に曲げたもので、各地の城下町にも城の出入口や宿場内の街道に見られる町割りの工夫。また本丸までの城道は、堀と門を組み合わせた広場(枳形)を作ることにより、見通すことができません。今も3ヶ所の曲尺手が残り、当時の情景に思いを馳せることができます。お隣の豊橋市内にも、吉田城に向かう途中に「曲尺手町」として地名が残っています。

●城下町の成り立ち
田原の賑わいの始まりは、現在の「田原二七の市」が原点と言われる「六斎市」から始まったとされています。最初は神戸市場が中心にあったとされ、不定期の物々交換の市から定期的として六斎市(二、七の市、月6回)と伝えられています。物流は地元だけでなく、吉田方面からもたくさん往来があったと考えられました。その後、戸田宗光が田原城を築城したことで中心地が田原に移り、田原城下に商売の中心も移ります。

ます。繁栄と共に定期的な市のみならず、永正から天文年間(1504~1554)には商工業が店舗を構えるようになっていきました。こうして商人や職人が田原城下に移り住み、永禄から天正年間(1558~1591)にわたる現在の本町あたりに多く定着し、城下町の形が形成されたと言われています。

Spot.1 → 龍門寺

宗派は曹洞宗、山号は蔵王山、本尊は釈迦如来。三河准四国八十八ヶ所霊場25番札所。推定樹齢250余年の「双龍の松」という見事な松の木があります。

Spot.2 → 龍泉寺

宗派は真宗大谷派、山号は清谷山、本尊は阿弥陀如来。渡辺華山と共に蘭学・兵学の研究に尽力した鈴木春山とその母・園の墓があります。また、松尾芭蕉が貞享4年(1687)弟子の杜国を訪ねて伊良湖に向かう途中、天津巖(現在の杉山町天津地内)で詠んだ句碑があります。

Spot.3 → 報民倉

天保六年(1835)、渡辺華山の指導により、田原藩が建設した飢饉に備えた穀物を蓄える倉庫。天保の大飢饉の際には一人の餓死者も出さなかつたと言われています。惣門跡の横に建てられた建物は、現代版の「報民倉」で、災害時のための資機材が備蓄されています。

Spot.4 → 田原市民俗資料館

田原市民俗資料館は、田原市博物館に隣接し、田原城桜門の正面にあります。江戸時代以降の庶民の暮らしを中心にした歴史・民俗・生活工芸資料が展示されています。また、田原の産業、伝統文化、市民生活の推移をパネルなどで紹介されています。

龍門寺の脇の道には、「かわいい道祖神」やお釈迦様の足跡の石碑などが並んでいます。

宗派は真宗大谷派、山号は清谷山、本尊は阿弥陀如来。渡辺華山と共に蘭学・兵学の研究に尽力した鈴木春山とその母・園の墓があります。また、松尾芭蕉が貞享4年(1687)弟子の杜国を訪ねて伊良湖に向かう途中、天津巖(現在の杉山町天津地内)で詠んだ句碑があります。

天保六年(1835)、渡辺華山の指導により、田原藩が建設した飢饉に備えた穀物を蓄える倉庫。天保の大飢饉の際には一人の餓死者も出さなかつたと言われています。惣門跡の横に建てられた建物は、現代版の「報民倉」で、災害時のための資機材が備蓄されています。

田原市民俗資料館は、田原市博物館に隣接し、田原城桜門の正面にあります。江戸時代以降の庶民の暮らしを中心にした歴史・民俗・生活工芸資料が展示されています。また、田原の産業、伝統文化、市民生活の推移をパネルなどで紹介されています。

お子様の洋服とファッションを通して お客様とのコミュニケーションを大切に…。

RUGRAT(ラグラット) はやかわ **早川** ようこ **洋子**さん

■洋子さんの生い立ち

セントファーレ2階で子供服のセレクトショップを営んでいる、早川洋子さんは豊橋市で生まれ育ちました。幼い頃から絵を描くことや、ものづくりが趣味だったため、高校卒業後は、名古屋市にある服飾専門学校へ入学されました。その後、名古屋



■生産側から販売側へ転職
市内のアパレル会社に入社し、デザイン企画、パターン作成、商品化されるまでの一連の業務を経験されました。

アパレル会社を退職後、2000年に田原市内の衣料品店へ入社し、田原店の店長として販売、仕入れなど、また新たな経験を積むことで、「自分のお店を持つてみたい」という思いが強くなっていったそうです。そして2009年田原店閉店に伴い、退職後、株あつまるタウン田原へ入社。会社の直営店店長という立場でRUGRATが誕生しました。2年半後には独立をし、オーナーとしてRUGRATを経営されています。



住 田原市田原町萱町1
セントファーレ2階
電 0531-24-2055
営 11:00~19:00
休 毎週火曜日・第3水曜日
P セントファーレ共用
IG @rugrat.kids



■商品へのこだわり

「お気に入りの洋服は長く着ていただきたい」という思いから、縫製の良いメーカーさんの商品を取り扱うように心掛けています。



「多くのブランドを取り揃えることで、メーカー提案の決まったスタイルだけでなく、幅広くお洒落を楽しめるようなミックスコーディネートを提案しています」と洋子さん。

■お客様とのつながり

「長年勤務した田原市にお店を構えることができて本当に良かったです。子どもさん達が何かうれしいことがあると報告に来てくれたり、お子様の成長後にも、ご家族でお店へ顔を見せに来てくれたり、ここでお店を続けることで、お子様達の成長を見守ることができて嬉しく思います。今後も「まちの駄菓子屋さん」のような洋服屋さんをテーマに楽しい店づくりを続けていきたいと思えます。」と笑顔で話していただきました。

